

現代日本ファッションデザインの研究
Research on Japanese Contemporary Fashion Design

高木 陽子*¹, 成実 弘至*²⁺, 西谷 真理子*³⁺, 堀 元彰*⁴⁺
Yoko Takagi*¹, Hiroshi Narumi*²⁺, Mariko Nishitani*³⁺ and Motoaki Hori*⁴⁺

*1 文化女子大学 文化ファッション研究機構
東京都渋谷区代々木 3-22-1

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University
3-22-1, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo, Japan

*2 京都造形芸術大学芸術学部
Department of Art, Kyoto University of Art and Design

*3 文化出版局
Bunka Publishing Bureau

*4 東京オペラシティアートギャラリー
Opera City Art Gallery

+ 服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture,
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract : In the 1980s, both Tokyo as well as Antwerp were the cradles of cutting-edge fashion and both took the lead in changing the Fashion System. On occasion of the exhibition "6+ Antwerp Fashion" at the Tokyo Opera City Art Gallery (11 April-28 June, 2009), comparison in relation to their fashion designs of these two regions was made. The first generation of Antwerp designers was influenced by Japanese Fashion, especially after having visited Osaka in 1984 and Tokyo in 1985. Eventually, this event has led to the birth of the Antwerp Six in 1986. The results of this year's research are published in the exhibition catalogue and a symposium "Talk on Antwerp" that is organized on April 11, 2009, inviting Geert Bruloot, Hirofumi Kurino, and Keiko Hirayama, as witness of the most distinctive fashion culture and three Japanese graduates from the Fashion Department of the Royal Academy of Fine Arts of Antwerp.

はじめに

1980年代に世界のファッション界にインパクトを与えた新興勢力があった。東京とアントワープである。両者ともファッションの伝統がない地域から発生し、ファッションシステムを変貌させる契機をつくった。本年度は、ポストモダンのファッションを代表するアントワープと東京を比較することで、現代日本ファッションの特質を探った。

*1) takagi@bunka.ac.jp

方法

1. 研究代表者が監修する「6＋アントワープ・ファッション」展（平成 21 年 4 月 11 日—6 月 28 日、主催：東京オペラシティアートギャラリー、共催：文化学園・文化女子大学、協力：アントワープ州立モード美術館）の調査活動と位置付け、アントワープと東京のファッションの特性を比較研究する。
2. 「6＋アントワープ・ファッション」展の関連企画として、シンポジウム「アントワープを語る」を開催する。（平成 21 年 4 月 11 日 14:00—16:00 於：東京オペラシティアートギャラリー、主催：東京オペラシティ文化財団、服飾文化共同研究拠点「現代日本ファッションデザインの研究」）。アントワープ・ファッションの国際的発展のプロモーターであり本展会場デザイナーであるヒェルト・ブリュロート、アントワープ・ファッションの揺籃の場アントワープ王立美術アカデミーで学んだ日本人（坂部三樹郎、中章、中里唯馬）、アントワープ・ファッションを日本に紹介したバイヤー（栗野宏文）、ジャーナリスト（平山景子）を招き、現代日本ファッションとの比較の視点を中心に据えたシンポジウムとする。本年度は、その準備のための会議、アントワープ・ファッション関係者の聞き取り調査を行った。

結果と考察

1. 研究会を 4 回開催した。
 - 第 1 回（11 月 28 日）：本年度の研究の進め方について。
 - 第 2 回（12 月 12 日）：「6＋アントワープ・ファッション」展関連企画立案。
 - 第 3 回（1 月 17 日）：早期よりアントワープ・ファッションを注目していたファッション批評家の平川武治氏のヒアリング。
 - 第 4 回（3 月 23 日）：アントワープ王立美術アカデミーで学んだ日本人デザイナー（坂部三樹郎、中章、中里唯馬）の東京ファッションウィークにおける展示とショーを視察。
2. 研究メンバー全員で、「6＋アントワープ・ファッション」展図録の翻訳、校閲、テキスト執筆等の編集に従事した。[1、2]
3. 高木は、アントワープにて約 21 人のファッション関係者にインタビューを試み、『装苑』5 月号の特集「アントワープはなぜ、モードを生むのか？ファッションと教育、そして日本」を出版した。[1] 1890 年代中ごろ、アントワープの第一世代のデザイナーたちは、東京のファッションに強いインパクトを受けていたこと、特に、1984 年の大阪訪問と 1985 年の東京訪問は、1986 年の「アントワープの 6 人」誕生の契機となっていたことが明らかになった。

文献

1. 高木陽子「アントワープはなぜ、ファッションを生むか？ファッションと教育、そして日本」『装苑』5 月号、pp.26-49、2009.